

第3回佐久市都市計画審議会（要約）

- ・開催日時：平成28年5月27日（金）
午前10時30分～11時40分
- ・開催場所：建設部 駒場仮事務所 会議室3

【辞令交付式】

- 1 辞令交付
- 2 委員自己紹介
- 3 事務局自己紹介

【審議会】

- 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 議事
 - (1) 議事録署名人の指名
 - (2) 事務報告
- ①傍聴者報告
- ②前回（第2回）議案の処理状況等報告
- (3) 調査審議

事務局より説明

質疑・意見等

（委員）

多極ネットワーク型コンパクトシティというのは、まさに佐久市のような状態を言うのだと思いますが、合併を重ねてきた土地なので、あえてそこまで言わなくても、多極ネットワーク型コンパクトシティ＝佐久市と思っていいと思います。

先ほど説明の中で、徒歩圏800メートルとは無理があると思います。概念の問題ですが、800メートルにこだわる必要はないと思いますが、徒歩圏でコンパクトシティを設定していくというのは実際には無理がある。昔の徒歩圏は小学校圏や中学校圏だったのですが、今は、とてもじゃないけど800メートルどころではない。そういった生活圏が昔の小学校エリアとは大幅に変わっているということがあって、昔の小学校圏域を想定しているだろうと思うが、なかなか難しいという気がしました。

むしろ、コンパクトシティの中味そのものをネットワーク型に結び付けていくのがいいのではないかという気がします。概念的に難しい気はします。

(事務局)

800メートルの考え方につきましては、国の方で立地適正化計画を策定するうえで、基本的な諸元といたしまして提示されているものということで、基本的にそれを元に設定させていただきます。ただ、そういったことに加えまして、佐久市の都市の状況や市街地のあり方も含めまして、800メートルは生かしながら、加えた要素の中で検討したいと考えております。

(事務局)

本日ご意見いただくことにつきましては、審議委員さんという立場もございしますが、色んな目でご意見をいただくという意味で、率直なご意見で構いませんのでよろしく申し上げます。

(委員)

相対的に将来を見通すとこういう形になってくるのであろうということはおおよそ想像つくが、改めてこういうものを表に出すと、中心の活性化というのは当然考えていかなければいけないが、周辺部の皆さん方がどうしようと、移り住まなければいけないという考え方になる可能性がありますので、地域外における皆さん方のことを真剣に考えていかなければ大変なことになる気がします。

(事務局)

立地適正化計画の基本的な思想といたしまして、特に、人口密度の維持をされるようにしていきたいというのが基本です。都市部に対しまして、そういった人口密度を維持していきたいという考え方が1つでございますが、農村部から都市部に集めてしまおうというものではございません。今の都市構造を生かしながら、地域の拠点に少しずつ集約して行って、人口密度を維持していくというものであり、農業をやっている方が佐久平駅の周辺に来てというものではございません。

そういった中で、用途地域内を中心とした検討になっておりますが、それとは別に、それ以外の部分も考えていく必要があります。資料の中にも問題提起がありますが、「用途地域外については、旧町村の中心部など既存の生活拠点の現状を考慮しながら、地域に根ざしたコミュニティの維持・活性化が図られるような区域ならびに拠点のあり方を検討する」ということとさせていただきますように、村部についても検討していきたいと考えております。

(委員)

「今後のことについては検討します。」という考え方や答弁があるわけですが、検討するというのはやらないということだろう。極端な言い方をすれば、そういう事例を挙げればいっぱいある。だからこそ、真剣に考えていかないと大変なことになるのではないかと思います。

(委員)

資料1-1の中で、「長い時間軸の中で緩やかな誘導を目指す」ということですが、資料1-2を見ますと、平成52年ぐらいを考えていると思いますが、このスケジュールを見ますと、この内容を決めたいということではありますが、25年のスパンで考えたときに、どのような意味を持つのかよくわからない気がします。

(事務局)

立地適正化計画につきましては、20年後のまちの姿を考慮して定めてまいるという記述がございます。今回使用させていただいております、将来人口推計というのは、概ねそのくらいのスパンで将来的な時期のものを推計したうえで検討させていただいております、目指す都市の具体的なものにつきましては、はっきり定義がなされておられません。ただ、長い時間軸の中で考えておまして、前提として、穏やかな誘導を考えております。

(委員)

何のために作るのかよくわからない。長期の中で区域設定とあるが、現行がどうなっているかもよく知らない。実際には、作ってみたところで、法規制も何もなければ、絵に描いた餅とは失礼な言い方ですが、意味があるものなのかな。長いスパンで考えるなら、我々のような年のようなものが議論しても意味がないかと思います。

(事務局)

将来に向けて下の世代のためにも、よりじっくりご審議していただければと思います。先ほどから人口密度の維持ということで、一定の密度がないとできない施設があります。一定の密度があるから成立する施設を残していくためにも、人が集まっているところは残していきたい。そういったところを拠り所としまして、周辺の方たちも生活をしているとことで、拠点を残していくためであると私は捉えているところでございます。

(委員)

市の思いはわかるが、パッと見ると「農家の人たちもこっちへ集まってくださいよ」というような印象を受ける。ちょっとこれだと農村部を潰してしまうのかと。市の言うように、一定の施設を維持するためには人口密度を増やさなければいけないというのもわかるけど、住居地域とか都市計画でエリアができています。そこに皆さん来てくださいますとあるが、そういうエリアがあるにも関わらずこれをやることにより、私も含む農村部の人たちは、我々の部落は無くなるのかというような感じがすごく受け取れます。何か上手い表現をやっつけていかないと、人口密度を高めて施設を維持したいという市の思いもわかりますが、市は過疎地を見捨てたのかという風に捉えかねないので、表現を上手くやり、過疎を見捨てないでいただきたい。

(事務局)

皆さんのおっしゃるように、この統計を見るとまさにその通りだと思います。ただ、立地適正化計画を立てなければ将来が見えてこない。これは、私たち50代、60代で生きている中で、25年経った後にこの世にはいる人いない人いるかと思いますが、1つの提案として、今後の投

げかけるテーマであってほしいと私は思っています。確かに、農村集落として形成をしてきた過去の歴史を見ると、何百年と歴史の中で出てきているところでありまして、たかが25年くらいのところで消滅をするということはもちろんありませんので、立地適正化計画の中の表現とすれば、今、住まそうとしているところは、全人口の3割くらいしか住んでいない。他の7割の方は別のところに住んでいる。そういう皆さんをいかにしてやっていくか、そこに住んでいただくのかということの中澤委員さんがおっしゃったとおり、コンパクトシティをどうやってつないでいくか、中のコンパクトをやっていかなければいけないということの中で、立地適正化計画はそれなりの意味があると思いますし、地方創生とかそういう部分も出てきまして、小さな拠点という表現もあるように、それも重ねながらまちづくりだと考えておりますので、立地適正化計画については、そういうところも少し考慮しつつ、言葉の表現の仕方についても考慮していかなければいけないのかなと思っております。表現の仕方については一考させていただきたいと思います。

(委員)

ちょうどこれから、地元の友達がこちらへ帰ってくると思うのですが、その時に、集約しすぎて、佐久平駅のように土地の値段が高くなったりとか、マンションができてお値段が高くて地元の若者の手が出せないほど高騰してしまうと、地元の若者からすると、これから家庭を作って、家を建てて暮らしていくときに、ちょっと住みにくいかなと思います。あまり集約しすぎるとそういうことになってしまうと思いますが、その辺も考えて居住区域をしっかりと設定していただけたらという気持ちはあります。

(事務局)

拠点と言っても、色々な性格があると思います。佐久平については、広域的な拠点といいますか、佐久市のみならず、その周辺から人を集めてきて、利便性を享受したいと考える方もいらっしゃる中で、その他の拠点は、多少色合いは違いますが、佐久平駅はそういう状況もあるけど、他にも住む拠点はあつた中で、その人のライフスタイルにあつた場所をチョイスしていただく考え方になるかと思ひます。少し余裕がある人やどうしてもそこに住みたい人、色々あろうかと思ひますが、そういった選択肢があるということでお考へいただきたいと思ひます。

(委員)

漠然とした話をしてしまうと思ひますが、子供を産んだときは、私は横浜市に住んでいて、横浜市は非常に人口も密であり、サービスも居住区ということで地域自体がかなり集約していくつもあるという中で、徒歩圏1キロメートル以内にスーパーや病院があり、車が全くいりませんでした。Uターンでこちらに戻つて来ましたが、車がないと何もできません。車が1人1台という規模で必要となつてきます。

子供が大きくなつて、自転車でそこら辺を走る際に、自転車で道に出たら、危険で自転車に乗れないというようなまちになっていました。私は、生まれは岸野で、子供の頃に感じていた生活スタイルと一旦首都圏に出て戻つて来たら、かなり視点が違つたのもあると思ひますが、周辺部は非常に住みにくい。岩村田で生活をしてはいますが、岩村田地区においても、自転車で子供と行くには非常に危ないと思ひます。

立地適正化計画の背景と目的ですが、将来像のところでは、「拡散した居住者の生活を支えるサー

ビスの提供が困難になる公共交通等」とありますが、公共交通等が困難になることはわかりませんが、ここを改善することで、私が言いたいのはバスのことなのですが、公共交通ではないですが、自転車の通りやすい道を整備というのを1つすれば、かなり周辺部でも住みやすくなるというようなことが可能なのではないかと思う。都市機能誘導区域をもう少し小さくして、もっとたくさん周辺部を作ったらいかがかという印象があります。

例えば、岸野にしても、岸野商店街が中心にあって、そこまで歩いて行けば何でもできたわけですが、今は、商店街自体が廃れてしまってほぼ機能していませんので、岸野の人たちはしょうがなく、車で野沢または佐久平駅周辺まで買い物に行きます。そうすることで、お年寄りはそのままで買い物に行かなければいけなくなってしまい、運転するのも危ないお年寄りもいるもので、バスを使うかということとバスはあまり通っていませんということになると、買い物に行けないとなると、佐久平駅周辺に住んでくださいと言われると考えると思う。今、岸野にはコンビニがありますけれども、コンビニではなくて、お年寄りがもっと行きやすいような小さなお店を作る等を考えた方がいいのではないかという印象を受けます。

岸野小学校は、1学年1クラスしかなくて、私が通っていた頃の約半分になっています。これは何故かという、子育て世代が2世、3世となっていくと便利な方へ、佐久市でいうところの中心部へ家を建ててしまう。そこに住んでしまうことになると、岸野にはいないわけで、例えば、岸野の中がもっと盛り上がってれば、そこで家を建てて住もうという考えに至ると思います。そうなれば、小学校の人数も減らないのかなと思います。

(事務局)

貴重なご意見として承ります。

特に公共交通は、現在の公共交通があてにできないから、充実すれば使ってもらえる。使ってもらえれば車に乗らなくてということだと思いますが、それは費用的なもの、財源の部分でうまくバランスが取れるというところでいくと、やはり、一定の集約が前提というところがあるかと思います。

立地適正化の1つの考え方としまして、昭和40年代のまちの姿をイメージしている部分がありまして、当時はそういった地域ごとに一定の生活ができていた部分がございますので、拡散するのを抑制して、元の姿に近づけたいというところがございます。

(委員)

昨年8月に制度化され、都市再生特別措置法が改正され、一番のねらい、重点というのは、国の地方再生から引っ張ってきているのか。

(事務局)

コンパクトシティにつきましては、以前から国土交通省あたりは踏まえておりまして、市街地をなるべく拡散させないという中で、考え方を一段進めて法制化したと捉え方をしており、その根底となっているのが、人口減少社会や高齢化社会への対応というところだと思います。

(委員)

大都市に人口が集中しているが、都市機能が便利な都市に自然に人が集まると思う。それを分

散しようとしているが、長野県は佐久も含めて、人口減少という避けられない非常に課題の高い社会問題だと思う。こういったインフラもいいですが、子育て支援政策も検討した方がいいかと。人が増えればこういう問題はあまり重要視しなくていいと思うが、高齢化、少子化というものが進んでいる中でこういったことになっている気がします。

(事務局)

おっしゃる通り、子育てや福祉につきましては、今回の立地適正化計画のキーワードとなっておりますので、そういったものを中心部に配置して、基本的に歩いたり、自転車で暮らせるようなことを考えている。

先ほど、村部はどうするのかという話がありましたが、小さな拠点づくりというものがございまして、村部の中心的な集落に必要な機能を残していきたいということで、立地適正化計画と似たような考え方がございまして、そういったものも合わせて考えていきたいと思っております。窓口は企画課になりますが、現在、企画と調整しながらやっていきたいと思っております。

4 その他

5 閉会